

アブリスボ®（RS ウイルスワクチン）について

1.RS（Respiratory Syncytial）ウイルス感染症とは

RS ウイルスによって引き起こされる呼吸器感染症を「RS ウイルス感染症」といいます。

RS ウイルスは、年齢を問わず生涯に渡り感染を起こします。生後 2 歳までにはほぼすべての子どもが感染すると言われていますが、特に生まれて 6 ヶ月以内の赤ちゃんは免疫が未熟で、RS ウイルスに感染すると重症化することがあります。

2.RS ウイルス感染症の症状と治療

症状：感染すると、潜伏期間のあと発熱・鼻水など上気道炎の症状がみられます。約 7 割の乳幼児では、上気道炎の症状が数日続いた後快方に向かうとされていますが、約 3 割の乳幼児ではその後肺炎などの下気道炎を引き起こして重症化する場合があります。

治療：対症療法になります。呼吸困難が強いなどの重症では入院し、酸素投与や人工呼吸器の使用が必要になることがあります。

3.RS ウイルス感染症の対策

- ・感染経路は、飛沫感染と接触感染です。
- ・基本的な感染対策として手洗い・手指消毒、換気、マスク着用などがあります。
- ・RS ウイルスワクチンは、現在のところ赤ちゃんに直接接種するものではありません。
- ・妊婦に RS ウイルスワクチン（アブリスボ®）を接種することで、妊婦の体の中で RS ウイルスに対する中和抗体(※)が作られます。その中和抗体が胎盤・臍の緒を通して胎児に移行します。移行した中和抗体が生後数ヶ月の間、赤ちゃんを RS ウイルス感染から守ることが期待されます。

※中和抗体：ウイルスに結合して感染や重篤化を防ぐ抗体

4.アブリスボ®接種の対象と方法

- ・このワクチンは任意接種です。
- ・妊娠 32 週から 36 週まで(36 週を含む)の妊婦が対象です。
- ・妊娠 30 週から 35 週までの妊婦健診時に、接種希望があればお伝え下さい。ワクチン接種の予約をとります。
- ・筋肉注射です。
- ・接種費用は自費で、33000 円です。
- ・接種当日発熱(37.5 度以上)がある、重篤な急性疾患にかかっている等で接種できないことがあります。

5.副反応について

- ・ワクチン接種後、注射部位の腫れ/赤み/痛み、倦怠感、頭痛、発熱、吐き気、失神等がみられる場合があります。
- ・まれに血圧低下、ショック、アナフィラキシー様症状、けいれん等重篤な副反応がみられることがあります。

6. 予防接種健康被害救済制度について

予防接種によって健康被害が起こった時は、医薬品副作用被害救済制度により医療費等の給付を受けられる場合があります。詳しくは独立行政法人医薬品医療機器総合機構のホームページ等をご覧ください。

7.その他

- ・このワクチンは、生後 6 ヶ月までの RS ウイルスを原因とする下気道疾患の予防効果が認められているもので、生後 6 ヶ月以降の有効性は確立していません。
- ・ワクチン接種後 14 日以内の分娩となった場合、母体からの中和抗体の移行が十分ではない可能性があります。
- ・早産児などの RS ウイルス感染症の重症化リスクが高い疾患・病態にある場合、妊婦へのワクチン接種の有無にかかわらず、赤ちゃんが抗体製剤の投与対象となることがあります。